

安塚区地域協議会だより

発行日：令和8年3月25日

発行人：安塚区地域協議会 会長 吉野 誠 一

第41号

《令和7年度は3件の諮問を審議》

安塚区地域協議会 会長 吉野誠一

地域協議会には、市長の諮問機関としての役割があります。「諮問」とは、市長が区内の住民生活に影響が大きい事項について、地域協議会に意見を尋ね求めることです。それに対し、地域協議会がその影響の観点から協議し、整理した意見を申し述べることを「答申」と言います。



令和7年度は、市から安塚区地域協議会に対して3件の諮問があり、それぞれに答申いたしました。その中でも、須川地域生涯学習センターを廃止する諮問に関しては、屋根雪処理や指定避難所等の見地から意見が百出、建物の健全な維持管理及び早期の除却、冬期の災害発生に備える具体的な避難手段等を求める意見を添えて諒としました。

答申の提出は区の住民の意思表示に他なりません。安塚区地域協議会としては、熟議を尽くしたうえで全会一致の結論を導き出すことを心掛けています。

《令和7年度「大・浦・安」地域協議会委員研修会に参加して》

安塚区地域協議会委員 和泉達郎

令和7年11月10日（月）午後から、雪だるま高原キューピットバレイスキー場センターハウスにおいて、令和7年度「大・浦・安」地域協議会委員研修会を開催しました。今年度は安塚区地域協議会が幹事となり、当日は大・浦・安の地域協議会委員、総合事務所職員ら約30名が参加して、研修会と情報交換会の二部制で実施しました。

研修会では、中郷区地域協議会の竹内会長から『地域協議会と地域団体の連携について』と題して講演をしていただきました。その中で、自主的審議を進めるにあたり区内に住む全ての皆さんの声を聴くため、Web 回答等による住民アンケートを実施して地域の課題や今後の取り組み方を明らかにし、「ずっと大好き中郷！未来へのバトン」をキャッチフレーズに、いつまでも住み続けたいまちづくりを基本理念として、地域活性化の方向性を作成したと紹介されました。また、地域協議会を核として各団体との連携を図ることが、地域活性化につながることも述べておられました。

講演を受け、大変、参考になるとともに、今後、当地域協議会が実施する協議の方向性が見えた実感いたしました。安塚区も過去に、住民に対してアンケートを行った実績があるにも拘わらず、活用されていないように思います。今一度、内容を確認して、今後の地域協議会の協議進行の一助として、活用できればと思っています。

最後に、私は今回、司会進行役を仰せ遣ったのですが、研修会の準備から撤収まで、縁の下の力持ちとして尽力いただいた事務局に感謝申し上げます。今後は地位と役割を再認識して、安塚区にお住まいの皆様のために役目を果たして参ります。

裏面へ⇒

《地域協議会の検討結果を引き継いで反映 ～公募型プロポーザルによる利活用事業者募集～》

※【自主的審議事項】旧安塚中学校の利活用について（続報）

令和6年3月末で閉校した旧安塚中学校（以下、「同校」という。）の利活用に関し、市が令和7年10月から、公募型プロポーザルによる利活用事業者の募集（以下、「利活用事業者募集」という。）を行っています。これに係る募集要項には、安塚区地域協議会（以下、「当協議会」という。）が自主的審議事項で検討を続けてきた内容が引き継がれ、反映されました。

『安塚区地域協議会だより（第40号）』（令和7年9月25日発行）に掲載したとおり、当協議会では令和6年7月から、同校の利活用を自主的に審議してきました。この検討の中では、『商業施設化』のアイデアに対して先進地視察に行ったり、『データセンター』のアイデアに対して元雪だるま財団の研究者だった伊藤先生からアドバイスをいただいたり、『やすづか学園の移転』のアイデアに対して学園の運営スタッフと意見交換をしたりと、それぞれの実現可能性を探る取組を積極的に行ってきたところです。

一方、市では4月から『廃校施設の利活用に関するサウンディング（民間対話）型市場調査』を実施して、市内の各閉校施設に対する民間事業者の利活用需要があるかを調査しました。その結果、同校に需要が見込まれると判断したため、利活用事業者募集を行いたい旨、自主的審議を行っている当協議会に対して事前の相談がありました。



利活用事業者募集を行うにあたり、市は、募集要領に当協議会が検討してきた『旧安塚中学校の利活用事業者に期待する利活用方法のイメージ（期待内容）』を引き継いで、記述するとの説明でした。相談された時期はちょうど、当協議会での検討が盛んに行われていた時期だったため、委員の間には自分たちで最後まで議論したい残念な気持ちもありましたが、募集要領に「地域経済の活性化」「地域雇用の創出」のほか、『雪だるま物産館』や『キューピットバレイ』などの利用の増加に貢献できることや「地元の人や子どもたちが集える場所を提供できる」ことなどが盛り込まれ、同校の大きな特色である「雪冷房や太陽光発電の設備を有効に活用してほしい」ことなども記述されたため、当協議会では納得して、市による利活用事業者募集に賛成しました。また、これに伴い、当協議会の自主的審議事項としては、協議を一旦、「休止」にしました。「協議終了」とせず「休止」にしたのは再協議の必要が出た場合に備えての配慮ですが、現在は全委員が、民間の皆さんからより良い提案が出てくることを心待ちにしています。



なお、この募集では令和8年3月に選定委員会で優先交渉先の事業者を選定し、その事業者が地域の皆さんに事業内容の説明をしたうえで、問題がなければ所定の手続きを経て、同年10月頃に契約する予定とのことです。（新保）

【あしがき】

私が地域協議会の委員を拝命して、2年が過ぎようとしています。この2年で何ができたのか、何か役に立てたのか振り返ってみました。

つくづく思い知らされたのは、想いと現実の大きな乖離。想いだけでは物事は実現することができないということ。実現するには力が必要です。実行するための計画力、成し得るための資金力、資金が無ければ出資できる力へのアピール力等々が必要です。個々の力は弱くても、協議会という力の集合体に変えて、何かを成すために原点に戻って、協議会の皆さんと共にもう一度、何ができるのか、この安塚をどうしたら元気にできるのか、残り2年で考えていきたいと思います。（秋山）